

公民的分野における社会的事象の見方や考え方を深める指導の工夫  
～「効率」「公正」の視点から～

須賀川市立仁井田中学校 教諭 樋上 聖

## 1 研究の趣旨

平成23年9月に国立教育政策研究所が「中学校・高等学校における理系進路選択に関する研究」において実施した全国規模の意識調査の結果によると、中学3年生が将来生きていく上で公民が「とても重要」もしくは「重要」だと答えた生徒の割合は全体の80%を占めた。これは、地理、歴史について同様に回答した生徒の割合を上回っていた。そのような公民的分野に対しての背景がある中で私の授業を振り返ってみると、教師が生徒に対して、一方的に説明する授業を数多く展開していたように思える。それは、学習の重要性を感じている生徒の興味や関心を高め、公民的分野の学習のねらいを十分に達成しているとは言えない状況にあった。

そこで、公民的分野のいくつかの単元において、生徒が社会的事象の見方や考え方の深まりを自覚できる指導を目指した。そのような指導を展開することで、公民として必要な基礎的教養を培い、将来生きていく上で重要な学習と感じている多くの生徒の声にこたえることになると考え、以下のような研究仮説を設定し、本主題に迫った。

公民的分野の学習において以下の手だてを講じれば、生徒は社会的事象に対して自分の考えを持ち、社会的事象がどのような仕組みで成り立ち、どのような問題を抱えているのかを分析、思考できるようになり、見方や考え方が深まるであろう。

一年次（平成25年度）

【手だて1】社会的事象を身近に感じさせる学習課題の工夫

【手だて2】「効率」「公正」を中心とした視点を持たせる場の設定

【手だて3】自分の考えを適切に表現させるための工夫

二年次（平成26年度）

【手だて】社会的事象を「効率」「公正」の視点でとらえさせていく場の設定

公民的分野における多くの社会的事象は、様々な立場にある個人によって成り立っている。そこで、社会全体をとらえていく視点を「効率」、個人の立場をとらえていく視点「公正」という二つの視点を設定した。本研究における「効率」「公正」という視点は、学習指導要領解説社会編で述べられている「効率」「公正」を基にした。

## 2 研究の概要

### (1) 一年次の研究の実際

【手だて1】社会的事象を身近に感じさせる学習課題の工夫

学校生活や地域で見られる身近な生活に関わる事象を学習課題と設定した。

【手だて2】「効率」「公正」を中心とした視点を持たせる場の設定

多様な立場を意識させながらお金や時間に無駄がないか、だれもが納得するのかなどを中心に考えさせた。

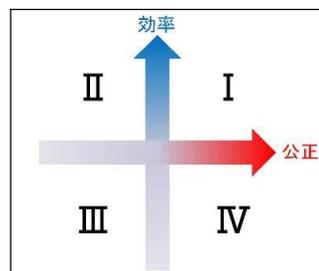
【手だて3】自分の考えを適切に表現させるための工夫

文章だけでなく図を活用したり、思考過程を可視化したり、プレゼンテーションソフトを活用したりすることで根拠を明確にさせた。

### (2) 二年次の研究の実際

【手だて】社会的事象を「効率」「公正」の視点でとらえさせていく場の設定

人権、経済の単元においてそれぞれ取り上げた事例について、右図を活用させた。人権においては「公正」、経済においては「効率」を重視しながらとらえさせた。



## 3 成果と今後の課題

### (1) 成果

公民的分野における社会的事象の見方や考え方を深めるためには、「効率」「公正」の視点からとらえさせていくことが有効であったことを確認することができた。

### (2) 今後の課題

各単元における「効率」「公正」とは何か明確にしておいた上で、他の単元や分野全体を見通して計画的に実践していく必要がある。